

移動相：1-ヘプタンスルホン酸ナトリウム 2.0 g を水 500 mL に溶かし、酢酸 (100) を加えて pH 4.0 に調整した後、メタノール 500 mL を加える。

流量：エメチンの保持時間が約 14 分になるように調整する。

カラムの選定：成分含量測定用塩酸エメチン及び臭化水素酸セファエリン 1 mg ずつを 0.01 mol/L 塩酸試液に溶かして 10 mL とする。この液につき、上記の条件で操作するとき、セファエリン、エメチンの順に溶出し、それぞれのピークが完全に分離するものを用いる。

試験の再現性：上記の条件で標準溶液につき、試験を 6 回繰り返すとき、エメチンのピーク面積の相対標準偏差は 1.5 % 以下である。

## トコンシロップ

Ipecac Syrup

吐根シロップ

本品は 100 mL 中に総アルカロイド (エメチン及びセファエリン) 0.12 ~ 0.15 g を含むシロップ剤である。

製法 本品は「トコン」の粗末をとり、「エタノール」/「精製水」混液 (3 : 1) を用い、流エキス剤の製法を準用して得た浸出液を、必要に応じて減圧で濃縮し、又は適量の「エタノール」及び「精製水」を加え、この液 100 mL 当たりの総アルカロイド (エメチン及びセファエリン) の量が 1.7 ~ 2.1 g になるように調整し、本液 70 mL に「グリセリン」100 mL 及び適量の「単シロップ」を加え、シロップ剤の製法により、全量 1000 mL として製する。

性状 本品は黄褐色の濃稠な液で、味は甘く、後に苦い。

確認試験 本品 2 mL を蒸発皿にとり、塩酸 1 mL を加えて混和した後、サラシ粉の小粒を加えるとき、その周辺はだいたい色を呈する。

純度試験 エタノール 本品 5 mL を正確に量り、これに内標準溶液 5 mL を正確に加え、更に水を加えて 50 mL とし、試料溶液とする。別に、エタノール (99.5) 5 mL を正確に量り、水を加えて正確に 100 mL とする。この液 5 mL を正確に量り、これに内標準溶液 5 mL を正確に加え、更に水を加えて 50 mL とし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液 2  $\mu$ L につき、次の条件でガスクロマトグラフ法により試験を行う。それぞれの液の内標準物質のピーク高さに対するエタノールのピーク高さの比  $Q_T$  及び  $Q_S$  を求めるとき、 $Q_T$  は  $Q_S$  より大きくない。

内標準溶液 アセトニトリル溶液 (5 → 100)

操作条件

検出器：水素炎イオン化検出器

カラム：内径約 3 mm、長さ約 1.5 m のガラス管に 150 ~ 180  $\mu$ m のガスクロマトグラフ用多孔性エチルビニルベンゼン-ジビニルベンゼン共重合体を充てんする。

カラム温度：105 ~ 115 °C の一定温度

キャリアーガス：窒素

流量：エタノールの保持時間が 5 ~ 10 分になるように調整する。

カラムの選定：標準溶液 2  $\mu$ L につき、上記の条件で操作するとき、エタノール、内標準物質の順に溶出し、それぞれのピークが完全に分離するものを用いる。

成分含量測定法 本品 5 mL を正確に量り、0.01 mol/L 塩酸試液を加えて正確に 50 mL とし、試料溶液とする。別に成分含量測定用塩酸エメチンをデシケーター (減圧・0.67 kPa 以下、酸化リン (V)、50 °C) で 5 時間乾燥し、その約 0.01 g を精密に量り、0.01 mol/L 塩酸試液に溶かして正確に 100 mL とし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液 10  $\mu$ L ずつを正確にとり、次の条件で液体クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液のエメチン及びセファエリンのピーク面積  $A_{TE}$  及び  $A_{TC}$  並びに標準溶液のエメチンのピーク面積  $A_{SE}$  を測定する。

総アルカロイド (エメチン及びセファエリン) の量 (mg)

$$= \text{成分含量測定用塩酸エメチンの量 (mg)} \\ \times \frac{A_{TE} + A_{TC} \times 0.971}{A_{SE}} \times \frac{1}{2} \times 0.868$$

操作条件

検出器：紫外吸光度計 (測定波長：283 nm)

カラム：内径 4 ~ 6 mm、長さ 10 ~ 25 cm のステンレス管に 5 ~ 10  $\mu$ m の液体クロマトグラフ用オクタデシルシリル化シリカゲルを充てんする。

カラム温度：50 °C 付近の一定温度

移動相：1-ヘプタンスルホン酸ナトリウム 2.0 g を水 500 mL に溶かし、酢酸 (100) を加えて pH 4.0 に調整した後、メタノール 500 mL を加える。

流量：エメチンの保持時間が約 14 分になるように調整する。

カラムの選定：成分含量測定用塩酸エメチン及び臭化水素酸セファエリン 1 mg ずつを 0.01 mol/L 塩酸試液に溶かして 10 mL とする。この液につき、上記の条件で操作するとき、セファエリン、エメチンの順に溶出し、それぞれのピークが完全に分離するものを用いる。

試験の再現性：上記の条件で標準溶液につき、試験を 6 回繰り返すとき、エメチンのピーク面積の相対標準偏差は 1.5 % 以下である。

微生物限度 微生物限度試験法により試験を行うとき、本品 1 mL につき、細菌数は 1000 以下で、真菌 (かび及び酵母) 数は 100 以下である。また大腸菌、サルモネラ、緑膿菌及び黄色ブドウ球菌は認めない。

貯法

保存条件 遮光して保存する。

容器 気密容器。

## トラガント

Tragacanth

TRAGACANTHA

本品は *Astragalus gummifer* Labillardière 又はその他同属植物 (*Leguminosae*) の幹から得た分泌物である。

性状 本品は白色~淡黄色半透明の角質よりの湾曲した平板又は薄片で、厚さ 0.5 ~ 3 mm で、折りやすく、水中で膨化する。